

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

H. イエスは第三回ガリラヤ巡回の前に十二使徒を整える

第5部：弟子たちに対するイエスの絶対的な権威と弟子たちとの一体性

デイリー・ジーザス・ニュース #107

MT 10.32-42 (並行テキスト：なし)

32 「人の前でわたしを認める者を、わたしも天の父の前で認めます。33しかし、人の前でわたしを知らない者を、わたしも天の父の前で知らないと言います。」

34 「わたしが地上に平和をもたらすために来たと思ってはならない。わたしは平和をもたらすために来たのではなく、剣をもたらすために来たのだ。35わたしは、

「父に逆らう男、

母に反抗する娘、

そして義理の娘が義理の母に反抗する。

36人の敵はその家族である…」 (ミカ7:6)

37わたしよりも自分の父や母を愛する者は、わたしにふさわしくありません。わたしよりも自分の息子、娘を愛する者も、わたしにふさわしくありません。38心から自分の十字架を負ってわたしに従って来ない者は、わたしにふさわしくありません。39わたしを離れて自分の命を得た者はそれを失い、わたしのために自分の命を失った者は、それを得るのです。」

40あなたがたを迎える人は、わたしを迎えるのであり、わたしを迎える人は、わたしを遣わした方を迎えるのである。41預言者を預言者として迎える者は、預言者の報いを受け、義人を義人として迎える者は、義人の報いを受ける。42また、わたしの弟子であるこれらの幼子たちのひとりに、たとえ一杯の水でも与えたなら、よくよくあなたがたに告げます。その人は決して報いを受け損なうことはありません。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マルク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています**。旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	おそらくガリラヤのカペナウム
タイムライン	回ツアー直前)
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	H. イエスはガリラヤへの第三巡回の前に十二使徒を整える

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

H. イエスは第三回ガリラヤ巡回の前に十二使徒を整える

タイトル	第5部：弟子たちに対するイエスの絶対的な権威と弟子たちとの一体性
------	----------------------------------

コメント：

イエスは、ガリラヤへの第三巡回における十二使徒の役割に備えて、二つの真理を強調して幕を閉じました。一つ目は、イエスの絶対的な権威と、弟子たちがイエスの権威に服従しなければならないという義務です。

イエスは主であり救い主であるため、人と父との関係はイエスとの関係によって決まります（10.32-33）。真の弟子は、イエスへの絶対的な献身を公に表明することをいといません。彼らは、主と交わることを特権であり、大きな栄誉であると考えています。それは、個人の価値ではなく、主の豊かな恵みによってのみ可能となるのです。

弟子が主であるイエスに完全に身を委ねることは、最終的なものであるため、イエスは使徒たちに、イエスへの忠誠は家族、友人、あるいは自分自身への忠誠さえも超越しなければならないことを改めて思い起こさせました（10.34-39）。彼らは、第二巡回旅行（DJN #090）の初めに、母と兄弟たちがイエスのもとに来て、イエスを家に連れて帰ろうとした時、イエスが御国との関係を何よりも優先することを示すのを目にし、耳にしていました。弟子の目標はキリストに似た者となることです。イエスは既に、彼らが倣うべき模範を示しておられました。

ですから、弟子たちはイエスのために人生のすべてを喜んで捨てなければならませんでした。なぜなら、イエスだけがその献身に値する方だったからです。彼らはまだ理解していませんでしたが、イエスは彼らの神でした。彼らはすでに全宇宙で最も偉大な宝をイエスの中に見出していたので、彼らが捨てたものは実際には「犠牲」ではありませんでした。なぜなら、彼らはイエスを通して、捨てたものよりもはるかに多くのものを得たからです。これは彼らが持ち続けなければならない姿勢でした。それは、イエスの王国のたとえ話「畑の宝」と「高価な真珠」に例示されています。（DJN #094）

弟子たちはイエスへのこのような絶対的な献身を実践する必要があっただけでなく、説教する際には、それを福音の不可欠な部分として宣言することをためらってはならませんでした。イエスに従うために必要な献身の度合いを軽視することは、イエスの価値と尊厳を軽視することと同じです。イエスは完全に神であるので、私たちのすべてを受け入れるに値します。イエスは使徒たちに、宇宙の王であるイエスを離れた人生の空虚さと虚しさを大胆に宣言するように指示しました。

イエスは、遣わし主であるご自身と、献身的な代表者である弟子たちとの間に一体性があるという感動的な真理を説き、訓練を終えました（10.4-42）。使徒たちはイエスの命令に従い、イエスの権威の下、イエスの賜物を通して、イエスの聖霊の力によって、自らの意志ではなく、イエスの言葉を宣べ伝えるために出かけて行ったので、彼らは真にイエスの代表者でした。イエスが、同じ使命をもって地上に遣わされた父なる神と一体であったように、使徒たちはイエスの使命においてイエスと一体でした。

ですから、イエスは使徒たちに、彼らが仕える人々は、使徒たちと接するのと同じように、イエスと接することになるだろうと保証して、訓練を終えました。使徒のメッセージを受け入れるなら、彼らはイエスを受

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

H. イエスは第三回ガリラヤ巡回の前に十二使徒を整える

け入れているのです。使徒たちを支えるためになされたことは、真にイエスのためになされたことであり、イエスの報いを受けられるのです。同じように、人々が彼らのメッセージを拒否するなら、彼らは実際にはイエスを拒否しているのです。イエスは、御自分の代表者たちを通してメッセージを伝えておられる方です。

イエスが最後に、ご自身と遣わされた弟子たちとの一体性を強調されたことで、訓練は一巡しました。イエスは使徒たちに権威、賜物、言葉、そして使命を与えることで訓練を始めました。使徒たちはこれらすべてを恵みによって惜しみなく受け取り、同じように与えることになりました。イエスとの一体性は、人々が彼らのメッセージに応答する時、それがイエスご自身への応答となることを意味しました。イエスは常に彼らを通して働いておられたのです。これこそが、使徒たち、そして私たちが宣教に確信を持つための唯一の確かな基盤なのです。

応用：

マタイ10章におけるイエスの包括的な教えを通して、使徒たちはイエスの代理として宣教に携わる力と備えを得ました。彼らは自分の力や資源ではなく、「**イエスの名において**」人々に語り、仕えるよう命じられました。主としてのイエスの賜物、力、そして統治は絶対的なものでした。イエスを信じる者に対するイエスの期待も絶対的なものでした。イエスを主、救い主として信じることによる祝福と永遠の恩恵もまた絶対的なものでした。イエスは十二使徒に、大胆さと燃えるような情熱をもってイエスに仕えるように、つまりイエスと同じ御霊によって仕えるようにと教えていたのです。

イエスが十二使徒に与えた訓練の指示には、自己満足や凡庸さが入り込む余地は全くありません。イエスの地上における宣教活動全体を目撃する賜物と召命は十二使徒に特有のものでしたが、イエスが彼らに示された宣教活動の原則は、今日の私たちにも当てはまります。

「すべての国の人々を弟子とする」というイエスの究極の使命は、イエスのために犠牲を払うことに限界がある、生ぬるく自己中心的な信者によっては決して達成されません。「**イエスのようになる**」とは、神の国の利益のために、完全に身を委ね、イエスに従うことを意味します。

あなたはどうか？「**完全な放棄**」とは、イエスの主権と、すべての国々へのイエスの使命に対するあなたの献身を表していますか？